



令和4年産米の作柄概況について

令和5年4月1日

1)作柄

・5月は大きな気象の崩れはなかったものの、6月上旬はかなりの低温・少照になり、降水量も多く、6月6日の梅雨入り以降生育は鈍化、特に茎数増加が遅れ、葉色も淡くなりました。一方6月後半～7月上旬はかなりの高温・多照で経過し生育は回復傾向となりました。8月以降、気温は平年並～やや高めで経過しましたが、日照時間は9月上旬ごろまで少なめに経過し、梅雨明け時期は特定できませんでした。そのため登熟はやや緩慢になった一方、極端な高温の日が少なかったことから高温障害については回避されたものと推察されます。

主な病害虫について、葉いもちが初発した7月上旬が高温傾向で、感染拡大は抑制されました。発生最盛期を迎えた7月下旬は降雨が少なく温暖で上位葉への進展についても抑制され『平年並』となりました。穂いもちは出穂期以降、降雨日が続く感染が早まるも葉いもちの上位2葉の病斑数が平年よりやや少なく、病勢の進展が緩やかで発生地点率が『やや少』に抑えられました。斑点米カメムシ類については『やや少』で、主要種の発生量は平年並でしたが、8月の雨天日が多く本田侵入が抑制されました。また割れ粳率が平年より少なかったため斑点米被害粒率はやや少なくなりました。一方、周辺に牧草地や雑草地等のあるほ場ではカメムシ類の発生量が多く、斑点米被害も大きい傾向がみられました。

・宮城県南部の作況指数は101の平年並、10a当たり収量はふるい目1.7mmで522kg(昨年比+4kg)、1.9mmで489kg(昨年比+4kg)となりました。

宮城県南部

522kg/489kg

【101】

宮城県

537kg/511kg

【100】

<凡例>

上段：10a当たり収量kg

(ふるい目1.7mm)/(ふるい目1.9mm)

下段：【作況指数】

2)4年産米集荷状況及び品質

(袋換算)

4年12月末現在

地区名	集荷数量	集荷率	1等米比率
柴田	41,116	88.95%	89.22%
大河原	19,032	105.97%	89.71%
村田	28,767	87.85%	90.12%
川崎	50,399	100.68%	92.34%
蔵王	35,644	94.16%	89.14%
白石	46,859	89.99%	89.64%
七ヶ宿	7,247	102.21%	90.95%
みやぎ仙南	474,715	90.34%	91.11%

・仙南地域における2等以下の主な格付理由

①充実度(48.28%)

②部分着色(カメムシ)(37.68%)

③腹白粒(8.43%)

お知らせ

稲作講習会(育苗相談会)の開催について

☆水稻の育苗管理～本田初期の管理について、講習会を開催します。

☆各会場で配布資料により管理のポイント等を説明します。

☆参加者の希望により、近隣の育苗ハウスを巡回することがあります。

☆内容は下記の通りです。お誘いあわせのうえお越しください。

(ご参加の際は、マスク持参等感染症対策にご配慮をお願い致します。)

地区	月日	開催内容			
		時間	9:30	11:00	13:30
柴田 大河原	4月20日 (木)	場所	Aコープ槻木店 2階会議室	(農)下名生ファーム様 事務所前	金ヶ瀬育苗センター

【講師】大河原農業改良普及センター、JAみやぎ仙南

<裏面もあります>

育苗管理について

～高温障害に気をつけ、ハウス内の温度・水管理を適正に行いましょう～

温度管理

時期	日中の目標	夜間の目標
緑化期	20～25℃	10℃以上 低温時(外気温が5℃以下)は、早めにハウスを閉め保温資材をかけましょう。
硬化期	15～25℃	

◎温度管理を適正に行うことで、苗の徒長や不揃い等を防ぎ、カビ等の発生も併せて抑制することができます。

◎新しいビニールに張替した場合は温度が上がりやすくなるので、注意しましょう。

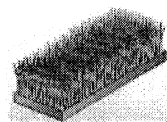


温度計の設置は目の高さではなく、苗の高さに設置しましょう！！

水管理

◎1回目のかん水は緑化が終了してから行いましょう。

◎覆土や葉が乾いたら、午前中にたっぷりとかん水しましょう。



1日に何回もかん水を行うと、軟弱苗、徒長苗や根張りが悪くなります。過湿になると、カビや細菌の発生にもつながりますので、かん水は午前中に1回のみ行いましょう。

※プール育苗法については『おいしい米づくり・地域づくりカレンダー』を参照してください。

育苗時の殺菌

おすすめの使用方法

適用病害名/使用目的	薬剤名	希釈倍率	使用液量(育苗箱1箱当り)
苗立枯病・ムレ苗防止 根張促進・活着促進	ナエファインフロアブル	1,000倍	500ml



**水100ℓ + 薬剤100ml = 1,000倍液(苗箱200枚分)
1,000倍液を苗箱に500ml / 1箱かん注します。**

◎は種時の使用か、出芽直後の使用をおすすめします。

異品種混入防止対策

異品種が混入した場合、大きな損害(産地の信用喪失、損害賠償等)を被ることになります。作業を行うにあたり、繰り返し点検・確認することで確実な防止対策ができます。

対策



- ★購入した種子袋は保管しておきましょう。
- ★種子ネットは品種ごとに色を変え、品種名の札を付けて作業員全員が判るようにしましょう。
- ★品種切替り時には機械清掃をしましょう。
- ★ハウスにも品種札を設置しましょう。
- ★苗の運搬時は複数人で、事前に品種を確認しましょう。